

気鋭の俳人、評論家として活躍する一方で、北海道に俳句集団「itak（アイヌ語で「言葉」の意）」を発足した。その集団は、結社や既存組織の枠に囚われない活動を行うほか、俳誌といった出版物を持たず、インターネットにより情報発信を行うなど、新たな手法により俳句の文芸運動を展開している。また、俳句甲子園北海道大会の審査委員長を務めるなど、北の俳句界のリーダーとして若い世代の創作意欲向上に尽力しており、今後の活躍が大きく期待されている。

◎受賞者の主な略歴

- S54 明治学院大学卒業
- H7 「藍生」入会
- H8 「雪華」入会
- H13 メール句会「迅雷」結成
- H15 現代俳句協会評論賞
藍生新人賞
- H16 俳句甲子園北海道大会審査委員長（～現在）
雪華俳句賞
- H17 中北海道現代俳句協会青年部長（～H23）
- H19 ウェブマガジン「週刊俳句」に参画
- H21 「全国俳誌ダイジェスト 俳壇抄」の巻末論考執筆（～現在）
- H23 北海道新聞「道内文学時評（俳句）」執筆（～現在）
- H24 俳句集団「itak」を発足
北海道文学館評議員（～現在）
中北海道現代俳句協会副会長（～現在）
北海道俳句協会常任委員（～現在）
- H25 中北海道現代俳句協会事務局長（～現在）
句集「無量」刊行
藍生賞

